

平成30年8月21日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	出雲市における農商工連携による6次産業化支援活動の取り組み その1～ ～加工用サツマイモの産地化に係る農商工連携会議の開催～
-----	---

(ダイジェスト)

斐川町で加工用サツマイモを試作する法人と加工品（干しいも、ペースト、かりんとう等）を製造し、生協等で販売して全国展開する関連会社と関係機関が、一堂に会して、30年度前期の取り組み状況報告（機械化導入状況、生育中期の栽培状況）、30年度後期の取り組み予定や栽培面積の拡大等、農商工連携による6次産業化の推進について検討しました。

平成30年8月2日、法人と関係機関が、「加工用サツマイモの産地化に係る農商工連携会議」を開催しました。

まず、30年度前期の取り組み状況報告として、法人とJAしまね斐川地区本部農機課及び機械メーカーから機械化導入状況等について報告がありました。法人は、加工用サツマイモ栽培に必要な一連の機械として、トラクター、ロータリー、ブロードキャスター、マルチャー、溝掘機を導入され、5月末～6月、「べにはるか」の苗を生分解性マルチを使って14千本植付されました。栽培面積は50a、現時点での生育は概ね良好です。

次に、30年度後期の取り組み予定等について協議しました。その結果は以下のとおりです。

1 30年度後期の機械導入の予定

収穫前後の作業機械であるフレールモア（つる切機）、掘取機、運搬車の導入については、出雲市単独事業を活用する予定。また、今後、サブソイラー、防除機も導入。加工用サツマイモの機械化一貫体系が確立する。

2 加工用サツマイモの掘取実演会の開催

10月上旬に斐川町の生産者や関係機関等を集めて掘取実演会を開催し、斐川町での規模拡大を推進する。また、当日は、関連会社が製造販売するサツマイモの加工品（干しいも、かりんとう等）の試食PRも行う。

3 加工用サツマイモ栽培面積の拡大

同JA管内の30年産の栽培面積は、法人を除いて4.5ha（昨年対比0.5ha増）。ほとんどを同JAが集荷し関連会社に販売、将来的に同社は50ha規模の供給を期待している。この規模拡大について、斐川町農業公社等関係機関が農地集積を支援する予定。

今後も出雲普及部では、関係機関と連携しながら農商工連携による6次産業化支援活動を継続していきたいと考えています。